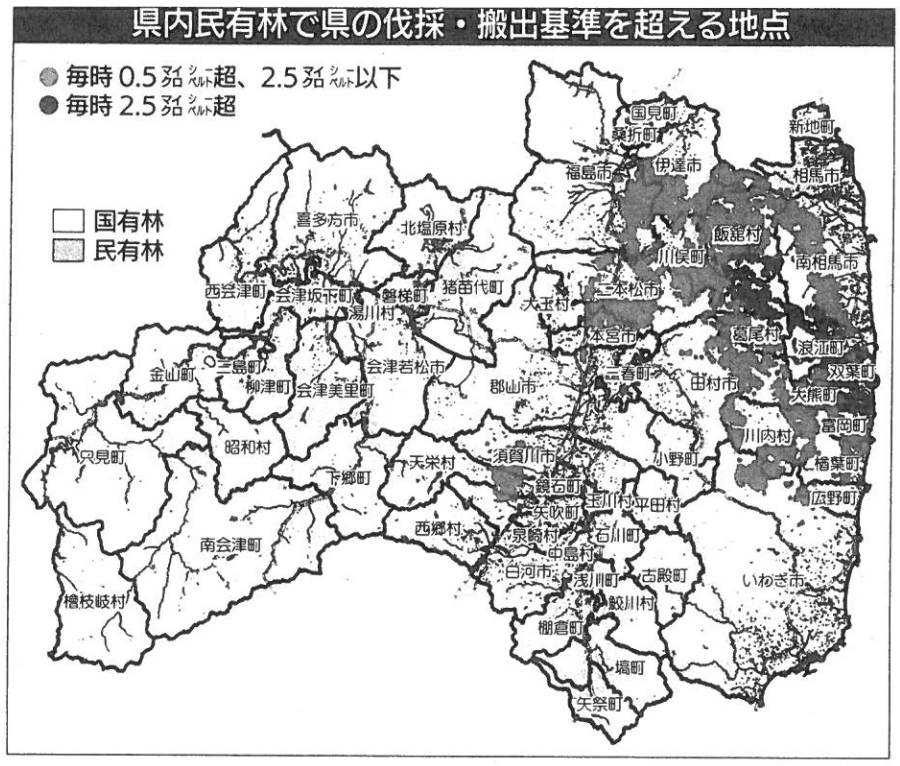
福島民報
2016（平成28）年
1月4日
月曜日

民有林9割伐採可能

県の線量基準を下回る

県内民有林で県の伐採・搬出基準を超える地点



県内民有林の約九割が県の伐採・搬出基準（空間放射線量毎時〇・五〇マイクロシーベルト以下）を下回り、原木を伐採できることが県木材協同組合連合会（県木連）のまとめで分かった。県木連関係者は「放射線量の低い森林から伐採すれば放射性物質を含んだ樹皮の発生を抑制できる」として、計画的な伐採で林業再生を加速させる考えだ。（2面に関連記事）

避難区域の低減課題

県木連は原子力規制委員会公表の空間放射線量データ（平成二十六年九月一日～十一月七日測定）を基にまとめた。県内約二十一万地点のデータから民有林八万九千六百六十六地点を抽出した結果、88％に当たる七万八千六百三十三地点が伐採・搬出ができる毎時〇・五〇マイクロシーベルト以下だった。会津地方や県南地方などの三十三市町村の民有林では基準超えがゼロだった。

県の基準を上回ったのは全体の12％に当たる一万一千三十三地点だった。浜通りや県北地方などの二十六市町村で見られた。

※県の民有林伐採・搬出指針　指定廃棄物となる1キロ当たり8千ベクレルを超える樹皮の発生を抑制するため、平成26年12月に木材業者らに通達した。県の調査で、空間放射線量が毎時0・50マイクロシーベルト以下の森林では8千ベクレルを超える樹皮が確認されなかったため、伐採地が毎時0・50マイクロシーベルト以下であれば伐採・搬出を認めた。0・50マイクロシーベルトを超えた場所でも樹皮が1キロ当たり6400ベクレルを下回った場合に限り伐採・搬出を可能とした。

東京電力福島第一原発事故で避難区域が設定された十二市町村のうち、田村市と広野町を除く十市町村で県の基準を超えた民有林の割合が50％を超えた。富岡町と葛尾村は全ての調査地点、大熊、双葉、浪江、飯舘の四町村は90％以上の地点で基準を上回った。

県木連は避難指示解除や林業再生の動きが加速する中、今後の伐採林の選定などに役立てようと伐採・搬出が可能な地域を詳細に調べ、放射線モニタリング地図にまとめた。地図には厚生労働省が原則として営林活動を行わないよう求めている毎時二・五マイクロシーベルト超の地点も記した。ほとんどが帰還困難区域と重なった。

県内の森林面積約九十七万ヘクタールのうち、民有林は約六割の五十六万ヘクタールを占める。林業従事者や個人らが先祖から受け継いできた財産、なりわいの場で重要な地域資源となっている。新たな建築材CLT（直交集成板）への活用も期待されている。

県基準を上回った民有林では林業再生のため、放射性物質の低減策などが求められる。

森林除染見送り
国に対策求める
県、きょう申し入れ

環境省が民家や農地から二十メートルの範囲と日常的に人の出入りがある場所を除く森林は原則として除染しない方針を固めたことを受け、林業再生や住民帰還を見据えた具体的な方向性と対策を示すよう求める声が上がっている。同省などは林業従事者の被ばく低減策も明示していない。県は四日、同省に説明するよう申し入れる。

ご利益を得ようと梵天に手を伸ばす参拝者

伸ばす手に幸

本宮・岩角寺　大梵天祭

約三百五十年の歴史を誇る正月行事「大梵天（ぼんてん）祭」は三日、本宮市和田の岩角山岩角寺（いわつのさんがんかくじ）で繰り広げられた。

青竹の先に白や金の紙を付けた縁起物の梵天の一部を手に入れると家内安全や無病息災などのご利益があるといわれている。岩角山奉賛会員が梵天を高々と掲げて境内に入場すると、参拝者は一斉に駆け寄り、手を伸ばして激しく奪い合った。

地元の安達太良太鼓の演奏や福銭まきなどもあり、境内はにぎやかな雰囲気に包まれた。

明日に挑む　芽吹く福島の力　＃2

「できる」

保子さん28㊥

平成二十三年三月十一日、東日本大震災。心が大きく、暗く揺れた。

田村市復興応援隊の小林　い」

放射線の影響はどこまで及ぶのか。友人宅に引きこもり、インターネットで線り込んだ。ゼミで指導した教授の鈴木典夫(五四)は「物おじしない子で、社会問題を熱心に学ぶ姿が印象的だった」と語る。

務所

しかし、社会人となり、その情熱はつまずく。福島市のまちづくり会社と郡山市のNPO法人に勤めたが、いずれも長続きしなかった。どのように資金を集め、事業を企画すればいいのか皆目見当がつかない。

「大学での経験があれば社会の役に立てるという『おごり』があった」と振り返る。

失意の日々に原発事故が追い打ちを掛けた。

□

「東京都内で開く復興支援のイベントで、被災地い」。原発事故から一カ月が過ぎたころ、知人の頼みを引き受けた。

「今、古里は…」。集まった都民を前に、語り始めた。止まっていた心の時計が再び動き始めた瞬間。人と向き合う大切さをあらためて感じ、故郷への思いを新たにした。

田村市復興応援隊が動きだすと知ったのは、それから二年後の二十五年夏だ。

「奈保子ならできるよ」。学生時代の頑張りを知るNPO関係者から熱心に説得された。挫折の苦い記憶がよみがえったが、復興がなかなか前に進まない古里への思いが不安に勝った。

「田村で育った私だから、できる仕事がある」。勤めていた食品宅配会社を去った。

（文中敬称略）

■

ふくしまづくり　新こえ挑戦で　本社年間

あぶくま抄

ファンにとって残念な知らせが昨年末に届いた。テレビ時代劇「鬼平犯科帳」が百五十作を節目に幕を引くという。火付盗賊改方長官「鬼の平蔵」こと長谷川平蔵を演じるのは中村吉右衛門さんだ▼多くの名優が演じたが、原作者池波正太郎さんは中村さんの演技をことさら称賛した。味わい深い鬼平犯科帳の世界に欠かせない名脇役が酒と旬の食材だ。食通で知られた池波さんが絶妙の間で登場させる。鬼平の好物の一つがアイナメの煮付けである。いわく味付けは「辛めがよい」。鬼平でなくとも思わず喉が鳴る▼縄張りを持つ生態や滑らかな食感がアユと似ているとして鮎並と記される。美味で愛すべき魚との意味を込めて愛魚女とも。黒潮と親潮がぶつかる本県沖で水揚げさ

発行所
福島民報社
福島市太田町13－17
（郵便番号960-8602）
電話代表　(024)　531－4111
編集局531－4122　広告局531－4153
事業局531－4173　販売局531－4175
購読のお申し込み
0120-373437

日本名水百選
磐梯の名水仕込
榮川
エイセン

きょうのニュース

国会きょう召集、軽減税率論議 4
青学大が箱根駅伝完全優勝… 24 30
マイナンバー窓口手続き開始へ 30
漢字のまち喜多方で誘客作戦… 31
昨年の個人情報流出207万件… 28 31

テレビ・ラジオ番組と解説 12面
地方版 8・9面
ひろば 26面
おくやみ 27面
放射線・生活情報 27面

HP、ツイッターにも掲載

おけいこ特集
別刷り18ページ

福島民報ホームページ
http://www.minpo.jp/
読者センター 0120-803344